

## 第 11 回 宮日旗中学硬式野球西日本大会 大会要項 (案)

- ◇ 大会名称 第 11 回 宮日旗中学硬式野球大会
  - ◇ 主催/主管 宮日旗中学硬式野球西日本大会実行委員会
  - ◇ 特別協賛 霧島酒造株式会社
  - ◇ 後援 都城市、都城市教育委員会、都城商工会議所、株式会社宮崎放送株式会社テレビ宮崎、BTV 株式会社
  - ◇ 協賛 南日本酪農協同株式会社、大淀開発株式会社、
  - ◇ 事務局 〒885-0086 宮崎県都城市久保原町 6-31 (有)三陽商事内  
大会実行委員会事務局 事務局長 平川 弘(Tel.090-4489-1223)  
Tel 0986-23-2626 Fax 0986-22-2535
  - ◇ 大会日程 2025 年 4 月 19 日(土)・20 日(日)、4 月 26 日(土)・27 日(日)、予備日 4 月 29 日(祝)
  - ◇ 開会式 2025 年 4 月 19 日(土) サンマリスタジアム 8:00 受付 9:00 開会
  - ◇ 監督会議 会議は行わない。事前に大会規定を送付し、質問等がある場合は 4 月 10 日(木)まで事務局で対応する。
  - ◇ 表彰式 2025 年 4 月 27 日(日) 決勝戦終了後 場所:サンマリスタジアム
  - ◇ 大会会場 サンマリスタジアム、ひむかスタジアム、アイビススタジアム、生目の杜第二球場、SOKKEN スタジアム、SOKKEN 第二球場、田野球場、錦原球場、西都市営球場、久峰球場、小林球場、王子原球場、都城市営球場、高城球場、天福球場、東光寺球場
  - ◇ 出場チーム 西日本各県より 48 チーム  
第 9 回優勝(串木野ドリームズ)、第 9 回準優勝(球道ベースボールクラブ)  
全国大会優勝(大分東リトルシニア) 全国大会準優勝(宮崎リトルシニア A)  
リトルシニア関西(3)、リトルシニア九州(16)、ボーイズリーグ(4)、フレッシュリーグ(12)、ヤングリーグ(6)、ポニーリーグ(7)
  - ◇ 試合方法 トーナメント戦
  - ◇ 競技規則 2025 年公認野球規則及び本大会特別規定を適用する。
  - ◇ 表彰 優勝、準優勝、3 位、最優秀選手賞(1 名)、優秀選手賞(2 名)、敢闘賞(1 名)
  - ◇ 審判 各チーム 3 名の帯同審判(内 1 名は 3 級以上で主審が出来る人)及びリトルシニア九州連盟審判員による。
  - ◇ 役員及記録員 実行委員会委員及び各チーム 1 名の役員及び各チーム 1 名の記録員。
  - ◇ 放送等 当該チームで行う。
  - ◇ グラウンド整備 当該チームで行う。
  - ◇ 試合球 当該試合の各チーム 2 個(各リーグ公認球) その他は本部で用意。
  - ◇ 交流戦 4 月 20 日(日)に交流試合を実施する。(希望チームによる交流戦)
  - ◇ 参加料 20,000 円  
参加料は指定の事務局銀行口座に振込みとする。
  - ◇ 監督会議懇親会 4 月 19 日(土)18:30~ 中華菜館 東天閣(とうてんかく)  
各チーム 2 名までの参加をお願いします。(会費) 6,500 円/人
  - ◇ 宿泊 別途、指定旅行会社から案内(費用は各チーム持ち)
  - ◇ 旅費 各チームにて手配(費用は各チーム持ち)
  - ◇ 弁当 別途、事務局より後日案内
- ※ その日試合予定チームの役員及び審判員は当日第 1 試合開始時刻の 1 時間前に会場に集合すること。

## 第 11 回 宮日旗中学硬式野球西日本大会 特別規定（案）

### 《大会約款》

- 1 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たすものとする。ただし、本大会の参加資格は 2025 年度の登録を各所属団体に完了したかもしくは登録を認められることが確実なチーム（監督、コーチ及び選手）とする。
  - 2 チームは、単独チームとし 11 名以上、25 名以内の選手で編成し、ベンチに入る監督、コーチ 2 名、スコアラーとする。本大会登録締切り日以降の選手、監督の変更は原則として認めない。ただし、登録した選手が怪我や病気のため出場できなくなった場合は、登録選手変更届を 4 月 10 日までに大会事務局へ送付し大会本部で承認されれば、選手の変更は出来ることとする。監督及びコーチに関しては登録している監督・コーチについて試合前に大会本部に申し出て承認されれば変更が認められる。
  - 3 選手、監督及びコーチ（スコアラーを除く）は同一のユニホームを着用すること。なお、背番号は所属の団体の規定に従う。
  - 4 各チームは必ず成人である引率者が、大会中（集合日から解散まで）選手の行動並びに観客席での応援等に対して責任を負うこと。（原則として、太鼓及びラップ等の鳴り物による応援は禁止する。）
  - 5 ゴミ等は球場施設に捨てず、必ず各チームで持ち帰ること。スタンドで応援する選手、家族等にも徹底させること。
  - 6 あごガード付きヘルメットの使用は SG マーク付きの市販の物は認める。但し後付等の改造品は禁止する。
  - 7 マウスピースの使用は認める。但し、色は透明か白とする。
  - 8 アームスリーブはアンダーシャツと同色に限り認める。
  - 9 傷害処置については、各チームで応急処置及び対応をすることとし、主催者は責を負わない。
- ※ 救急及び当番医は事前に開示する。

### 《競技に関する特別規則》

- 1 各チームの監督と主将は試合開始時刻の 40 分前、または前試合 4 回終了後（コールドゲームのときは試合終了次第）、各リーグ所定のメンバー表を大会本部（各会場）に 5 部提出し、同時に大会本部役員及び審判員立会いのもとで攻守の順を決める。なお、この際、大会所定の投球数申告用紙も併せて提出すること。また、大会本部役員は提出されたメンバー表と登録原稿との照合を行う。（選手登録カードの照合は行わない）
- 2 各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。（4 回表を終わった際、または 4 回裏の途中で打ち切れを命じられた試合で後攻チームの得点が先行チームの得点より多いとき。）試合成立後に、降雨や視界不良等により試合続行が不可能となった場合は、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。  
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンテッドゲームとし、本大会本部が指定した日時、場所で中断した状況で再開する。
- 3 4 回終了時に 10 点差及び 5 回終了以降 7 点差の場合は、コールドゲームとする。ただし、決勝戦にはコールドゲームは適用しない。
- 4 7 回終了後、同点の場合あるいは試合開始から 2 時間を越えては（どちらか早い方。）新しいイニングに入らず、以下の方法でタイブレーク方式を実施する。但し、4 回終了まではこの限りではない。

### 〈タイブレーク実施細則（延長回数に関する特別規則）〉

- (i) 7 回終了あるいは試合開始から 2 時間を越えて（いずれか早い方）、両チームの得点が等しいとき、以降の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ii) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

(iii) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(iv) この場合の代打及び代走は認められる。

5 投手の投球回数に関しては、「中学生の投球制限に関する統一ガイドライン」を勘案し、本大会の規定は以下のとおりとする。

(1) 1日最大80球以内とし、連続2日間で120球以内とする。ダブルヘッダーの場合に2試合に登板した投手は連続する次の日は1試合のみ登板できる。

(2) 打席の途中で制限数に達した場合は、当該打者終了までは投球を認める。ただし、制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。

(3) 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球はカウントする。  
(例：1ストライク2ボールになり申告敬遠した場合は、それまでに投じた3球はカウントする。)

(4) 打者に対して投じた投球がボークになった場合は投球数にカウントしない。

(5) 雨などで特別継続試合になった場合も投球数にカウントする。(ノーゲームになった場合も同様とする。)

(6) 投球制限に達した投手は、捕手につくことは出来ない

	第1日目	第2日目		第3日	第4日		予備日
投手A	80	40		80	40		80
投手B	50	70		60	60		80
投手C		80		40	80		80
投手D	50	40		40	40		80
	30		40	投球禁止			
投手E	40	80		50	70		80
投手F	60	60		60	60		80

6 指名打者制度は採用しない。

7 選手が打席に入るときは、必ず両耳付きヘルメットをかぶること(次打者も含む)。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。

なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること(練習時も含む)。

8 特別代走を認める。これは、特別な事情(死球による負傷など)により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃が完了した選手(投手及び捕手を除く)を特別代走者とする。

9 本大会では、金属バット並びに金属と他の材質との接合バットの使用を認める。但し、各所属団体公認のものに限る。

10 監督(コーチ)が一試合(7イニング)に投手のもとへ行ける回数を2回までとする(投手を交代させる場合は回数と数えない)。監督(コーチ)が2度投手のもとへ行ったら、3度目に行けば、そのときの投手は自動的に交代しなければならない。この場合は、他の守備位置につくことはできるが、その試合で投手に戻ることは出来ない。また、監督(コーチ)が投手のもとへ行ったら場合を除き、守備側のタイムは1試合(7イニング)につき2回までとする。(捕手は除く)攻撃側のタイムは1試合(7イニング)につき2回までとする。

延長に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、監督(コーチ)が投手のもとへ行ける回数は3イニングにつき1回とする。

守備側のタイムは3イニングに1回とする。

攻撃側のタイムは3イニングに1回とする。

- 11 監督またはコーチが同一投手のもとへ行くことに関して1イニングに2度行けば、投手は交代することとなるが、野球規則 5.10(I)の(2)にもかかわらず、他の守備に就くことが出来る。ただし、その試合の投手に戻ることは出来ない。
- 12 規則 5.10 d 【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることは出来ない」は適用しない。
- 13 その他特に定めのない限り、公認野球規則を適用する。

《大会特別規定・補足》

- 1 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告する、また、大会役員の指示に従い道具チェック等を受けること。
- 2 ベンチは組合せ表の上段（左側）のチームを一塁側とする。
- 3 グランドインから試合終了まで、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることが出来ない。
- 4 グランドインしたチームは大会本部競技委員の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
- 5 試合前のシートノックは7分間とする。なお、守備位置につかずシートノックの補助をする登録選手はヘルメットを着用すること。

注意：試合前のシートノックを行う場合は、サイドノックは禁止する。

- 6 試合をスピーディーに行うため以下の項目を守ること。
  - (a) 攻守交代時に守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング（円陣）に加わらず、所定の位置に速やかに着くこと。
  - (b) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、直ちに投手板を踏んで、投球位置につき、捕手からのサインを受けること。
  - (c) 打者は、みだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しないときはインプレイとする。
  - (d) 次打者は、必ずネクスト・バッターボックスに入り待機すること。（ただし、サークス内でのスイングは禁止する。）
  - (e) 捕手は、投手に返球したり野手に声をかけるために、一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
- 7 コーチボックスに入る者は、必ずヘルメットを着用すること。（選手は両耳ヘルメットを着用する。）コーチボックスに監督及びコーチが入ることを認める。
- 8 規則 4.06 に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー等いずれも相手選手を惑わすような行動をとってはならない。
- 9 手袋、リストバンド、リストガード、エルボーガード、フットガード、アームスリーブの使用を認める。打者が走者になった場合は、これらの脱着のためだけのタイムは認められない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの脱着のタイムを認める。（速やかにベースコーチが取りに行くこと）
- 10 サングラスは、日よけ防止のため投手を除く選手は身につけることができる。監督及びコーチ並びにスコアラーはグラウンド内の使用を禁止する。但し、監督及びコーチ並びにスコアラーが疾病等の場合は診断書を審判に提出し許可を求めることができる。首輪（リング）については、ユニホームの外から見えないように身につけるものとし、露見するものは禁止する。
- 11 試合中、次の試合チームの選手（バッテリー）はグラウンドに入ることができない。但し、グラウンド外にブルペンが設置されている場合はブルペンでの投球練習ができる。
- 12 試合中、当該チームの投球及び送球練習は1組のみとし、打球監視員を必ず1名置くこと。
- 13 バットボーイ、ボールパーソン、シートノック補助員は、両耳ヘルメットを着用すること。
- 14 ボールパーソンは原則各チーム2名。但、登録外選手でも可とする。

- 14 バットリング、鉄棒、マスコットバット等はグラウンド内に持ち込まない。
- 15 ダブルヘッダーが実施される場合は、大会本部及び各球場の競技責任者の指示に従うこと。
- 16 その他、大会期間中に疑義が生じた場合は大会本部にて裁定する。